メールマガジン版 音楽の世界

第 19 号　日本音楽舞踊会議（CMDJ）２０１５年９月 27 日（日）発行

The CONFERENCE of MUSIC and DANCE, JAPAN

〒169--0075　新宿区高田馬場 **4-1-6**　寿美ビル３０５号　TEL&FAX 03-3369-7496

http://www.cmdj1962.com/　　E-mail:　**onbukai@mua.biglobe.ne.jp**

■メールマガジン版『音楽の世界』第 19 号（Opera Concert 特集号について）

日本音楽舞踊会議　メールマガジン編集長：中島洋一

ずいぶん長らくお休みしておりましたが、久しぶりにメールマガジンを発行します。発行の最大の目的は、2005 年 12 月に第 1 回が開催された CMDJ オペラコンサートが、今回の開催で 10 回目を迎えるに当たって、その特集号を発行することです。ただ、準備期間が十分になく、原稿依頼などが殆ど出来ませんでしたので、今回は、主に間近に迫ったコンサートに出演される歌手の方々のメッセージと私が、書いた文で構成します。

しかし、今回でオペラコンサートは節目となる 10 回目を迎えることになりますので、過去９回の記録を掘り起こして掲載することにいたしました。メールマガジンの記事のうち、**「CMDJ オペコンサートの 10 年を振り返って」**と、**「CMDJ オペラコンサート、過去９回の開催の記録」**は、このメールマガジンのために、独自に書き下ろした記事でが、**「魔女、妖女伝説と芸術」**と**「プッチーニについての私見」**は、過去において『月刊：音楽の世界』に掲載した文です。

このメールマガジンは内容的に必ずしも充実しているとは言い難いのですが、今年、４月より、季刊として再スタートし、体裁も変わり、内容的にも充実して来ている『季刊：音楽の世界』の方も併せてお読みいただけたら幸いに存じます。

コンサートを明後日に控え、慌ただしい時期の発行となりましたが、今回は、プロの歌い手たちを招き、楽しく充実してコンサートとなることが期待できますので、多くの方々のご来場をお待ちしております。

（メールマガジン版『音楽の世界』編集責任者　中島洋一）

メールの宛先：中島洋一　yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp

♣ メールマガジン版　『音楽の世界』第 19 号目次　♣

1)　CMDJ オペラコンサートの 10 年を振り返って　2

２）CMDJ2015 年オペラコンサート『愛の疼きと癒やし』プログラム　4

３）出演者＆司会者のプロフィールと歌手達のメッセージ　6

4）プッチーニについての私見　11

5）CMDJ オペラコンサート、過去９回の開催の記録　16

6）日本音楽舞踊会議 会と会員の情報（コンサート案内）　27

７）編集後記　31

CMDJ オペラコンサートの 10 年を振り返って

2005 年 12 月2 日（金）に第1 回 CMDJ オペラコンサートが、すみだトリフォニー（小）ホールにて開催されましたが、それまでは、声楽部会のコンサートで、オペラのアリアが歌われることはありましたが、私が入会した 1987 年の頃は、オペラコンサートは殆ど開催されていなかったと思います。日本音楽舞踊会議は、作曲系、評論系、演奏系など様々な分野の音楽家や、音楽関係者で構成されている音楽文化団体であり、そのような会の性格を反映して、作曲部会と声楽部会が協力して、我が国の新作歌曲を発表するような機会は多かっのですが、声楽会員のうちで、個人的にオペラに関わる声楽家はいても、会としてオペラ公演を行うことは殆どなかったのです。

記憶に残るのは 1992 年6 月1 8 日にルーテル市ヶ谷で行われた声楽部会のオペラコンサートで『カルメン』を取り上げた時のことです。ハイライト版の公演でしたが、カルメン：金子恵美子(M.S.)、ドン・ホセ：土屋清美（Ten.)、エスカミリオ：佐藤光政(Bar.)、ミカエラ：新川比呂子（故人）：(Sop.)という配役でした。この公演の主催は声楽部会でしたが、声楽部会員だけでなく、作曲部会員だった桑原洋明氏や正岡泰千代氏なども合唱メンバーとしてステージに上がり、楽しく和やかな舞台だった記憶があります。その公演の企画者は佐藤光政氏と故石野富

士江さんで、当時、会の事務局長だった私ですが、お客の一人として鑑賞する役割に徹しました。なお、その時舞台に立った佐藤光政氏は、2005 年以降、今回を入れて 10 回開催される CMDJ オペラコンサートにおいて、2005 年～2008 年、2010 年～2012 年は司会役兼歌手として,
それ以外の年は司会者として、公演の中心として活躍しておりますし、土屋清美氏も 2005 年に氏の十八番の『カルメン』のドン・ホセ役を演じ、2009 年、2013 年、そして今年も出演することになっており、年を重ねてもその美声は衰えをしりません。

時間を遡りますが、９０年代後半以降、様々な事情から、若い声楽会員が退会して行き、オペラコンサートの企画がなかなか困難な状況が続きました。

しかし、2003 年から若い音楽家の発掘を目的としたフレッシュコンサートがスタートしました。このコンサートは、ピアノ、弦管打楽器、声楽などのすべての部門において、若い音楽家に楽壇に羽ばたいて行くためのステージを提供することを意図した企画です。器楽は勿論ですが、声楽部門においても、毎年優秀な若い声楽家が参加するようになりました。そこで、フレッシュコンサートに出演した若い声楽家と、本会会員の声楽家でチームをつくることで、なんとか、オペラサートの開催が開催出来そうな見通しが立ちましたので、2005 年 12 月に 13 年振りに、『愛、憎しみ、血の惨劇! 』という、サブタイトルのもとで、愛にまつわる殺人を主要な要素としたオペラを集め、オペラコンサートを開催いたしました。

それから 1 年9 ヶ月を経た 2007 年9 月 14 日に第2 回目のオペラコンサート『愛のたくらみ』を開催し、2008 年から今年まで、毎年9 月～10 月に、開催されるようになりました。

2007 年の『愛のたくらみ』が開催された際、当初は歌い手としてのみ参加する予定だった、ソプラノの島信子さんが自主的に演出も手がけ、それが、なかなかの好評だったこともあり、2008 年、2010 年、2011 年、2014 年には演出を担当することになりました。また、ピアノの亀井奈緒美さんは、佐藤光政氏と同様、第1 回から今回の第 10 回まで、毎年欠かさず参加しております。

2008 年度からは、フランス歌曲の秋山理恵門下生が、フレッシュコンサートを経て大勢入会してくれ、また他の門下から入会した若い人と併せ、女性歌手については、会だけでかなりまかなえるようになり、それと、主に男声歌手を会外から招くことで、色々なオペラに対応出来るようになりました。

2008 年度は、日曜日にホールを確保出来たので、会員の渡辺裕子さんが指導している、児童合唱団に出演を要請し、前半は演奏会形式で「椿姫」、後半は自前で大道具などを揃え「ヘンゼルとグレーテル」を舞台にかけるという贅沢な公演が実現しました。予想通り超満員の盛況となりました。

なお、コンサートのサブタイトルは、2005 年から 2009 年の第4 回までは、『愛、憎しみ、血の惨劇! 』、『愛のたくらみ』、『愛と夢の世界へのお誘い』、『愛の喜びと悲しみ』というように、サブタイトルの冒頭に“愛”の文字を使いました。しかし、2010 年の第5 回のみはサブタイトルから“愛”の文字を外し『音楽と笑い』というサブタイトルをつけました。しかし、翌年の 2011 年の第6 回から今回までは再び“愛”の文字が加わり、『愛の悲劇』、『愛の表と裏』、『愛の葛藤』、『愛の悲劇再び』、『愛の疼きと癒やし』と“愛”の文字からはじまるサブタイトルが続いております。

2010 年度、2012 年度は男性歌手が間際まで決まらず苦労しましたが、それでも比較的順調に回を重ねてまいりました。しかし、近年は若い会員たちも、年を経るごとに結婚、仕事、留学

など、それぞれの事情により、オペラコンサートになかなか参加しにくい状況が生まれてきました。そういう中で、この企画を発展させて行くためには、社会に向けてのより幅広い働きがけや、企画側の新たな創意工夫が必要になって来たと考えています。

このコンサートには、若い歌手によい経験の場を提供するという役割を果たすとともに、他の音楽団体ではなかなか行わないような新しい試みにも挑戦するという目標があります。それを実現させて行くには、様々な困難が伴うかもしれませんが、困難な状況こそ、人を成長させる好機と捉え、力ます、おおらかな気持ちで、企画を継続させたいと願っております。毎年開催を続けて行く中で、例えばある年は歌を中心にした楽しいコンサート、翌年は他の団体が手がけないような作品を舞台にかけるユニークで意欲的なコンサートなどと、年ごとにテーマを決めて、メリハリをつけながら続けて行くことを考えております。

これからも、フレッシュ・コンサートともども、オペラコンサートも発展的に継続させて行くことで、我が国の音楽文化の向上にささやかなりとも貢献したいと考えておりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。　（コンサート実行委員長・中島洋一）

2010 年 9 月 22 日　第５回 CMDJ オペラコンサート『音楽と笑い』「メリー・ウィドウ」最後のシーン

CMDJ2015 年オペラコンサート　『愛の疼きと癒やし』

～ロマン派のオペラアリアと歌曲によるコンサート～

2015 年 9 月 29 日（火）すみだトリフォニー（小）ホール　18:30 開演（18:00 開場）
入場料：3000 円（当日券あり）

主催：日本音楽舞踊会議／後援：季刊『音楽の世界』

《 プ ロ グ ラ ム 》

◆前半：【フランスの部】

原田智代（Sop.）　グノー:歌劇『ロミオとジェリエット』より　“私は夢に生きたい”
C. Gounod:　[Roméo et Juliette]~　“Je Veux Vivre”

盛田 麻央（Sop.）　グノー：歌劇『ファウスト』より“宝石の歌”
C. Gounod:　[Faust] ~　“Air des bijoux”

原田 智代（Sop.）　ドリーブ:歌曲　“カティスの娘たち”
L.Delibes:　“Les filles de Cadix”

笠原 たか（Sop.）　ショーソン：歌曲　“終わりなき歌”、“リラの花咲く頃”
E.Chausson:　“Chanson perpétuelle” ,” Le temps des lilas”

宮本 英一郎(Ten.)　ビゼー：歌劇『真珠採り』より　"耳に残るは君の声"
G.Bizet:　[les pecheurs de perle] ~　"Je crois entendre encore"

小林 紗季子(M-Sop)　サンサーンス：歌劇『サムソンとデリラ』より　“私の心はあなたの声に花開く”
Saint-Saëns:　[Samson et Dalila] ~ “Mon coeur s'ouvre á ta voix”

--- (休憩) ----

◆後半：【イタリアの部】

高橋 順子（Sop.）　マスカーニ：歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』 より　“ママも知るとおり”
P. Mascagni:　[Cavalleria Rusticana] ~ “Voi lo sapete，o mamma”
カタラーニ：歌劇『ワリー』より　“さようなら、ふるさとの家よ”
A.Catalani:　[La Wally] ~　“Ｅbben，n’andro lontana”

宮本 英一郎(Ten.)　ヴェルディ：『椿姫』より　"あなたが離れては～わたしの燃える心は"
G.Verdi:　[La Traviata] ~” Lunge da lei...De' miei bollenti spiriti”

盛田麻央/宮本英一郎　ヴェルディ：『椿姫』より　"パリを離れて"（二重唱）
G.Verdi:　[La Traviata] ~“Parigi o cara”

盛田 麻央（Sop.）　プッチーニ：歌劇『トゥーランドット』より　”お聞きください　王子様”
G. Puccini:　[Turandot] ~ “Signore, ascolta”

小林 紗季子(M-Sop)　チレア：歌劇『アドリアーナ・ルクヴルール』より“苦い喜び、甘い責め苦”
F.Cilea: [*Adriana Lecouvreur*] ~　“Acerba voluttà, dolce tortura”

土屋 清美(Ten.)　チレア：歌劇「アルルの女」より　“フェデリコの嘆き”
F.Cilea:　[L'Arlesiana] ~　“Il lamento di Federico”
プッチーニ：歌劇「西部の娘」より　“やがて来る自由の日”
G. Puccini:　[La Fanciulla del West] ~ ” Ch'ella mi creda libero e lontano”

◆

ピアノ：亀井 奈緒美（全演目）／司会：佐藤 光政 ／企画・構成：中島 洋一

◆ごあいさつ　◆

2005 年 12 月に第 1 回を開催した日本音楽舞踊会議（CMDJ）のオペラコンサートも、今年で節目となる第 10 回目を迎えます。今回はプロ歌手としてオペラの舞台で活躍されている方々を招き、演奏会形式により、フランス、イタリアの 19 世紀から 20 世紀前半に作曲されたオペラアリアと歌曲の名作をお贈りします。個性豊かな歌い手たちが繰り広げる歌の競演を存分にお楽しみいただくとともに、来年の第 11 回目以降、さらなる発展を目指すこのコンサートに対して、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

日本音楽舞踊会議　　代表理事：　助川敏弥、深沢亮子
理事長：北川暁子
公演局長：北條直彦
オペラコンサート実行委員：浦富美、中島洋一

演奏者・司会者プロフィール ＆ 歌手からのメッセージ 》

原田 智代（はらだ・ともよ：ソプラノ）

神奈川県出身。国立音楽大学演奏学科声楽専修、同大学院歌曲コース修了。大学院在学中、大学院オペラ「フィガロの結婚」でバルバリーナ役にて出演。第 25 回市川市文化振興財団新人演奏家コンクール声楽部門において、優秀賞を受賞。

2012 年 4 月　日本音楽舞踊会議主催　第 10 回 Fresh Concert に出演

2013 年 9 月　日本音楽舞踊会議主催　第 8 回 CMDJ オペラコンサートに出演

これまでに声楽を保永秀樹、牧山静江、小泉恵子、各師に師事。

〈　原田智代からのメッセージ　〉

今回、イタリア・フランスのオペラと歌曲というプログラムの中で、私は前半のフランスで 2 曲歌います。1 曲目は C.グノー作曲『ロミオとジュリエット』から有名なアリア「私は夢に生きたい」、2 曲目は L.ドリーブの唯一の歌曲「カディスの娘たち」です。2 曲とも全く異なる雰囲気の曲ですが、それぞれ生きること・愛に対する喜びを歌っています。ジュリエットは純真な女の子、カディスの娘たちはカルメンを思わせる魅惑的な女性。この異なるキャラクターを、ジュリエットはワルツに、カディスの娘たちはスペインの舞踏にのせてお届けしたいです。

盛田 麻央（もりた・まお：ソプラノ）

国立音楽大学音楽学部演奏学科声楽専修卒業、同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻フランス歌曲コース修了。二期会オペラ研修所第 52 期マスタークラス修了。修了時に優秀賞及び奨励賞受賞。パリ・エコール・ノルマル音楽院及びパリ国立高等音楽院修士課程を満場一致の最優秀の成績で卒業。第 17 回日仏声楽コンクール第 1 位及び竹村賞受賞。第 13 回東京音楽コンクール第 2 位、第 33 回飯塚新人音楽コンクール第 2 位、第 8 回エレーナ・オブラスツォヴァ国際オペラコンクール第 3 位、第 81 回日本音楽コンクール入選など数々のコンクールで入賞。オペラでは「フィガロの結婚」スザンナ、「魔笛」パミーナ、「ジャンニ・スキッキ」ラウレッタ、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「ハムレット」オフィーリア、「椿姫」ヴィオレッタなどを演じる。2011 年には「フィガロの結婚」にて二期会デビュー。同年 11 月、二期会「ドン・ジョバンニ」にツェルリーナ役で出演。ソリストとしては、ベートーベン「第九」、モーツァルト「ハ短調ミサ」、ブラームス「レクイエム」などで出演。二期会会員。

〈　盛田麻央からのメッセージ　〉

今回初めて参加させていただきます。新しい共演者との出会い、そしてコンサートをとても楽しみにしております。私はフランスから１曲、イタリアから１曲どちらも代表的なアリアです。二つの国の雰囲気を感じていただけたら幸いです。重唱は優しい愛の二重唱です。皆様の心にスッと届くような演奏ができればと思っております。どうぞお楽しみください！

☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆★+*☆

笠原 たか（かさはら・たか：ソプラノ）

国立音楽大学楽理科及び東京藝術大学別科声楽科卒業。ドイツケルン音楽大学３年留学。帰国後ソロリサイタル、ジィントリサイタル、オーケストラとの共演等行う。サリーオペラに所属しアメリカ、ロシア、京都にて数々のコンサートにソリストとして出演。２０００年よりイエルク　デムス氏と共に東京、京都、福岡、ザルツブルクにおいて１０回以上にわたりソロコンサートを開催し好評を博す。デムス氏と共に５枚のＣＤもリリースしている。ウィーンフィルのメンバーとは２回にわたって共演。２０１１年には京都芸術祭において京都市長賞を受賞。日本音楽舞踊会議においても、数々のステージに出演している。日本音楽舞踊会議会員。

〈　笠原 たか　からのメッセージ　〉

【ショーソンについて】私がフランス歌曲に出会ったのは大学時代の校庭でした。どこかの部屋から流れてくるフォーレの歌曲に自分と同じ周波を感じました。それからデュパルクに出会い夢中になり、そして今、ショーソンとの対話が始まっています。

リラの花咲く頃はしみじみとした曲ですぐに虜になりました。中間部のリズムがはっとさせられますがその前後との対比がおもしろいと思っています。いつかはこの曲の母体である愛と海の詩に挑戦できればと思います。終わりなき歌は歌詞そのものに高尚な哲学のようなものはないのですが、その歌詞についている音楽が素晴らしく、凝縮されたある女性の人生の悲哀がしっかりとした音楽の枠の中に描き出されていると思います。この２曲を歌えることは私にとって大きな喜びです。

宮本 英一郎（みやもと・えいいちろう：テノール）

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学音楽研究科声楽専攻修了。
大学卒業時に同声会新人演奏会に出演。これまでに声楽を三池三郎、福井敬の各氏に師事。二期会オペラ研修所第5１期修了。
これまでにモンテヴェルディ《ポッペアの戴冠》小姓役、《ウリッセの帰還（ヘンツェ版）》テレーマコ役、プッチーニ《ラ・ボエーム》、《ジャンニ・スキッキ》リヌッチョ役、レオンカヴァッロ《道化師たち》ベッペ役、シュトラウス《カプリッチョ》八人の従僕役などに出演する他、数多くの舞台に出演している。コンサートではモーツァルト《戴冠式ミサ》、ハイドン《ネルソン・ミサ》、ベートーヴェン《第九》のソリストを務めている。二期会会員。

〈　宮本英一郎　からのメッセージ　〉

日本音楽舞踏会議に参加させていただくのは実に５年ぶり、メリーウィドーのカミーユ役を演じて以来です。今回はビゼーの『真珠採り』から”耳に残るは君の声”他 2 曲を歌います。『真珠採り』は日本で演奏される機会はほとんどない演目でありますが、ナディールの歌うこのアリアは誰もがどこかで絶対に聴いたことのある名旋律。お楽しみいただければと思います。
ＣＭＤＪのお客様をはじめ、佐藤光政さん、ピアノの亀井奈緒美さんとも５年ぶりの再会を楽しみにしております。

☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆★+*☆

小林 紗季子（こばやし・さきこ：メゾ・ソプラノ）

国立音楽大学声楽科卒業、国立音楽大学大学院オペラコースを修了。二期会オペラ研修所 49 期マスタークラス、新国立劇場オペラ研修所第 9 期生修了。研修所公演『アルバート・ヘリング』『フィガロの結婚』『カルメル会修道女の対話』に出演。文化庁在外研修生としてイタリアでも学ぶ。『修道女アンジェリカ』バデッサ役でイタリアデビュー。新宿オペラ『カルメン』、東京二期会『パルジファル』『ホフマン物語』『ジュリアスシーザー』、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、青少年のためのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』東京春祭『ワルキューレ』、日本演奏連盟創立 50 周年記念オペラ『三人の女達の物語』などに出演。豊潤で深みのある声をもつ新星として今後の活躍が期待される。日本演奏連盟会員、二期会会員。

〈　小林 紗季子　からのメッセージ　〉

初めまして。メゾの小林紗季子です。 私は全く異なった 2 人の女性の愛のアリアをうたいます。一つはイタリア語で公爵夫人のアリアで若い彼のためにうたいます。もう一つはフランス語で若い女性ダリラがサムソンの魔力を見抜くために誘惑をする愛のアリアです。メゾの愛のアリアなので内容は単純ではなくドロドロしています（笑）しかし音楽はとても美しいので美しい旋律の中に隠れているそれぞれの役の心情がお客様に伝わるとうれしいです。

高橋 順子（たかはし・じゅんこ：ソプラノ）

千葉県市川市出身。 桜蔭高校3 年の時に岡部多喜子教授に師事する。武蔵野音楽大学声楽科卒業。在学中より、菊池初美教授、故ロドルフォ・リッチ氏に師事。千葉県新人演奏会に出演。同大学院を経て、岡部多喜子氏、野原広子氏のもと、イタリア歌曲、イタリアオペラ、日本歌曲に研鑽を積み、演奏会に多数出演、幅広い活動を行っている。

日本音楽舞踊会議会員。

〈　高橋 順子　からのメッセージ　〉

紛争や災害、事故や事件などなど…心痛む出来事が今なお 止む事がありません。そのような中またこの度も 愛をテーマに大作曲家の作曲家したオペラアリアを歌わせていただける事は 幸せな事～！と思わずにはいられません。

「カヴァレリア・ルスティカーナ」は「田舎武士道」とでも訳されるオペラだが ヴェリズモ・オペラのきっかけをつくった作品として かけがえのない意味をもっています。

カタラーニの「ワリー」は 本当に美しい音楽で彩られたオペラです。名指揮者トスカニーニの愛したこのオペラの魅力は 第一幕でワリーの歌うアリアでも 想像できるでしょう。つたない歌ですが この場に立てる喜びを胸に 大切に歌います。

土屋 清美（つちや・きよみ：テノール）

日本大学芸術学部音楽学科卒。

藤原歌劇団オペラワークショップ研究科修了。国枝誠也・河本喜介、マダム.バダールの各氏に師事。1980年、フランス音楽コンクールに於いてフランス総領事賞受賞、藤原歌劇団創立40周年記念演奏会、「カルメン」「ラ・ボエーム」のロドルフォ「椿姫」のアルフレード、ほか日本のオペラ「春琴抄」「天守物語」など、多数のオペラに出演。その他サロンコンサートに数多く出演。95 年より穂高絵本美術館森のおうち「歌と語りのコンサート」にレギュラー出演。蓼科高原三井の森　ハーモニーの家・高原芸術祭にも毎年出演。03 年 12 月横浜市開港記念会館にてリサイタル。03 年 12 月 CD「静けさに歌う」をリリースする。2005 年 CMDJ オペラコンサート『カルメン』の、ドン・ホセ役で出演。2009 年、2013 年 CMDJ オペラコンサートに出演。日本音楽舞踊会議・日本オペラ振興会・日本演奏連盟各会員・若き芸術家協会（YAA)副代表。

〈土屋清美　からのメッセージ　〉

２年ぶりの出演になります。とは言っても昨年のこのオペラコンサートに出演することになっていたのですが、コンサート直前になって、ドクターストップがかかり出演をキャンセルさせていただきました。人生で初めて２０日間の入院も経験し今は歌えることに感謝しています。

昨年歌う予定でしたチレアの「アルルの女」より”フェデリコの嘆き”（ありふれた話）と、あまり歌われる機会の少ないプッチーニの「西部の娘」”やがて来る自由の日”を歌うことにしました。プッチーニの『西部の娘』は、アメリカ先住民の歌や、19 世紀半ばのアメリカの民謡などを織り込み、ゴールド・ラッシュに湧く 1850 年代アメリカ西部の鉱山の街を舞台にした、いわゆる西部劇をオペラ化したと作品で、初演 は 1910 年にメトロポリタン歌劇場で、トスカニーニの指揮、カルーソーの歌、で上演され、大成功だったことでも知られています。プッチーニの生涯でも最高のセンセーショナルなものだったといわれており、その後は不人気とは、、、。

亀井 奈緒美（かめい・なおみ：ピアノ）

東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。
在学中より蓼科高原音楽祭に参加、室内楽を学ぶ。
第３回吹田音楽コンクール・ピアノソロ部門入賞。
家永ピアノオーディション合格者披露演奏会、国際芸術連盟主催ガラコンサート、日本音楽舞踊会議主催「アンサンブルの夕べ」「オペラコンサート・シリーズ」などに出演。 深澤亮子、弘中孝、佐藤由紀子、竹尾聆子、雄倉恵子、小田美津子の各氏に師事。現在、ソロ演奏、室内楽、オペラ、合唱伴奏など幅広く活動している。日本音楽舞踊会議 会員。

佐藤光政（さとう　みつまさ：バリトン＆司会）

1966 年東京芸術大学音楽学部卒業。1973 年第 7 回パリ国際音楽コンクール入賞。同年、第 42 回日本音楽コンクール声楽部門第 1 位入賞。1990 年《春琴抄》でフィンランドのサヴォリンナ・オペラフェステヴァルに参加。第 18 回ジロー・オペラ賞受賞。1994 年に 2 枚組 CD『佐藤光政　日本の杼情を歌う』を発刊。2000 年に、『日本の名歌を歌う』を発刊。2005 年から始まった CMDJ オペラ公演において、ずっと司会役および重要な役を担当し、公演の中心的存在として出演し続けている。
磯谷威、大槻秀元、柴田睦陸、河本喜介の諸氏に師事。二期会、日本オペラ協会、日本音楽舞踊会議、各会員。

☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆*+★+*☆★+*☆

過去のオペラコンサートの記録より１枚

2008 年 9 月 21 日（日）第３回公演の『ヘンゼルとグレーテル』舞台写真
（当日のリハーサル時に撮影）

魔女、妖女伝説と芸術　　作曲：中島洋一

本年９月の CMDJ オペラコンサート公演において、ビゼーの『カルメン』を取り上げることになった。実は 2005 年 12 月に開催された第１回目のオペラコンサートにおいても、最後の演目として、今回よりコンパクトの形で『カルメン』が演奏されている。また今回は、前半のアリアコンサートにおいて、マスネのオペラ『エロディアード』より、サロメのアリアが歌われる。「カルメン」、「サロメ」は、文学、音楽、美術など芸術愛好者にとって、非常に強い印象を残す伝説の妖女の名前といえよう。そこで、女性の描き方を通して、芸術作品に触れてみることにした。
タイトルに「魔女」という言葉を加えたのは、「聖女」という言葉と対比させるためであり、深い意味はない。

１）まず聖女伝説から

多くの男性芸術家にとって、もっとも描きたい対象は女神であろう。ルネサンスの画家ラファエロは多くの美しい聖母像を残しているが、それは、単に依頼主のニーズに応えただけの結果とは思えない。
少年後期には文学から遠ざかっていた私だが、青年期に入り再び文学に熱中するキッカケになった作品が 18 才の時読んだゲーテの『ファウスト』であった。悪魔メフィストフェレスと契約し、人生を生き直したファウストは、グレートヒェン（グノーの歌劇『ファウスト』ではマルガリーテ）との恋愛、皇帝への士官、ギリシャ神話の世界への旅、など多くの経験を重ね、やがて老いて死ぬ。ファウストはメフィストフェレスとの賭けに負けるが、自分の子供を孕み嬰児殺しの罪で処刑されたグレートヒェンの魂に導かれ昇天する。
「女性による魂の救済」のテーマは、ワーグナーの歌劇『さまよえるオランダ人』、『タンホイザー』にもみられる。『さまよえるオランダ人』のゼンタは、自分の恋するオランダ人が幽霊船の船長だと知りながら、海に身を投ずる。幽霊船は呪いを解かれ沈み、オランダ人の魂は浄化され、ゼンタとともに昇天する。『タンホイザー』についてはよく知られているので、説明を割愛するが、私の学生時代に NHK ラジオで「ワーグナー」の特集番組が放送され、その中でマンフレート・グルリットか、クラウス・スプリングハイムのどちらかだったと思うが「私は 13 才の時、はじめてタンホイザーの舞台を観たが、その夜はあまりの感動と興奮で眠れなかった」と語っていたのを思い出す。
日本の聖女伝説というと、加藤道夫の戯曲『なよたけ』が心に浮かぶので、少し触れてみよう。石ノ上ノ文麻呂は友人の恋の手助けをするつもりで竹取の翁の娘、「なよたけ」に近づくが、やがて彼の心は彼女のとりこになってしまい、現実と幻想の世界を彷徨う。現実の世界においては、彼女は文麻呂から去って他の男（大納言）のところへ走り、幻想の世界では、彼の胸の中で死ぬ。文麻呂はこの経験を通して、名作『竹取物語』（かぐや姫の物語）を書くことを決意する。
『なよたけ』からは、作者の青春の魂の軌跡を読むことが出来る。戦場へ赴く前に、遺書として書かれたものであろう。死を意識した者のみが到達できる透明感を感じとることが出来る。彼の劇団仲間たちは、戦争が終わったらこの作品を上演しようと約束を交わし、手書きでコピーを三通作りそれぞれが保管し、作品が戦火で失われるのを防ごうとしたという逸話が残る珠玉の名作である。

なお、この戯曲の全文が、ホームページで公開されている。

http://www.aozora.gr.jp/cards/001240/files/46361_25175.htm

生身の女性にも言及しよう。聖女、賢女　というと、私がすぐ思い起こすのが、ドストエフスキーの二度目の夫人、アンナ・グリゴーリエブナ・ドストエフスカヤと、画家シャガールの最初の夫人だったベガである。夫の生活面を支えたしっかり者のアンナ、シャガールのミューズ（美神）だったベガ、それぞれタイプは異なるが、二人が存在しなければ、あのような作品が生み出されなかったのではないかと思わせるほど、二人の芸術家にとって必要不可欠な存在だった。トルストイは「多くのロシアの作家やわたしが、貴女のような人を奥さんに持てたらもっとよかったでしょうに」とアンナに賛辞を送っているが、彼女はもともと速記者として生活の自立をめざした新しいタイプの女性であった。もし、ドストエフスキーでなく他の凡庸な男と結婚していたら、悪妻になったり、離婚して自立したりしていた可能性は大いにある。

二人の献身は、自己犠牲ではない。夫の芸術活動を支え、その成果を共有することが、自らが強く求めた生き甲斐であり、生きる意味でもあったので、努力を持続することが出来たのであろう。

2）伝説の妖女サロメ

洗礼者ヨカナーンの首に語りかける サロメ
（ビアズリーの挿絵）

「サロメ」というとすぐ、頭に浮かぶのは、ビアズリーのエロチックで退廃的な挿絵が入ったオスカー・ワイルド(1854-1900)の詩劇『サロメ』、リヒャルト・シュトラウスの楽劇『サロメ』の「７枚のベールの踊り」の音楽、聖ヨカナーンの首と対峙するサロメが描かれた、ギュスターヴ・モローの絵画『出現』である。

私は子供の頃、ワイルドの童話が好きだった。例えば、『幸福な王子』では、貧しく不幸な人々が多くいることを知った金箔の像の王子が、自分の身体の一部である金箔や，宝石を次々と与え、ついには目が見えなくなる。王子の手助けをして贈り物を運んだツバメは、南の国へ行く機会を逃し、最後に王子にキスをし、「さよなら」と呟き、死んでしまう。このシーンなどは涙なくしては読めなかった。そして、大人になってから、はじめてワイルドが『サロメ』や『獄中記』の作者であることを知ったのである。

ユダヤのヘロデ王は、妖しく美しい肉体をもつ王妃ヘロディアの連れ子サロメに下心を懐き、自分の前で踊るように命ずる。サロメは踊りなが

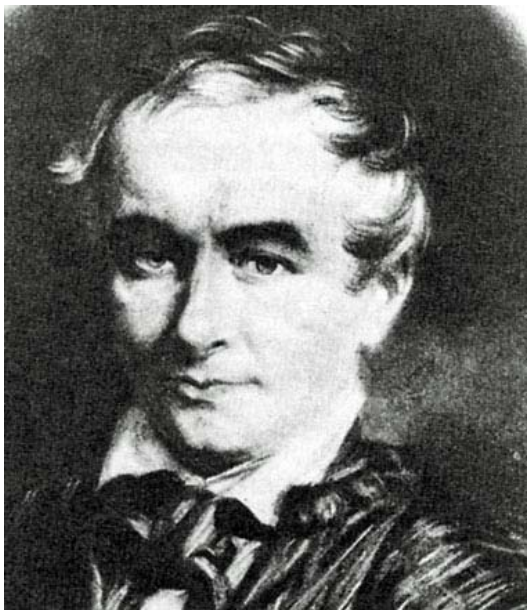
ら７枚のベールを次々と脱いで行く。すっかり興に入ったヘロデが「お前の望む物はなんでも与えよう」と言うと、サロメは洗礼者ヨカナーンの首が欲しい、と申し出る。ヘロデは驚いてためらうが、とうとう首を与えてしまう。しかし、ヨカナーンの首に語りかけ、口づけするサロメに恐怖をおぼえ、彼女を殺させる。

ヘロデ王も、王妃ヘロディアも一族の血族相姦の罪をなじり、新たな救世主の存在を予言するヨカナーンを嫌っている。しかし、ヘロデ王はヨカナーンを恐れている。その恐れには、童話においてキリスト教的自己犠牲の精神を描き、耽美主義という思想のもと、背徳的な世界にも惹かれるワイルド自身の心の投影があるのかもしれない。しかし、サロメにとってヨカナーンは、自分の恋の対象であることがすべてである。自分の方を向いてくれないヨカナーンの心を自分のものにしたいとひたすら願い、それがかなわずにヨカナーンの首を所望するが、骸（むくろ）となった首は、自分を見つめてもくれないし、語りかけてもくれない。サロメは信仰、罪の意識などが届かぬ別世界、恋する相手のすべてを独占したいという欲望に取り憑かれた狂気の恋の世界に生きているのである。

ところで、マスネの『エロディアード』は、フローベルの『３つの物語』のうち古代史の再現をめざした『ヘロディアス』から材料を得ているが、ストーリーは違っており、エロデ王（ヘロデ）は嫉妬心から、ジャン（ヨカナーン）を殺し、サロメは恋するジャンの後を追い自殺するという筋書きになっている。ここではサロメは妖女でも魔女でもなく、恋を貫く女として描かれている。

３）小説におけるカルメン

「カルメン」は架空の女性の名前のうち、最も人々に知られている名前であろう。それはプロスペル・メリメ（1803-1880）の原作にもよるが、やはりオペラ『カルメン』が女性名としての「カルメン」を世界的に広めたと考えられる。原作の小説については、今でも安い文庫版で容易に手に入れることが出来るので、読んだ人もいると思う。私はやっと最近になって読んだのだが、そこに描かれているカルメン像が、オペラのそれとはかなり異なっていることを感じた。


プロスペル・メリメ（1803-1880）

オペラのカルメンは、移り気だがその時々の愛に情熱を燃やす自由で誇り高き女である。しかし、小説のカルメンからは、恋に情熱を傾ける女というより、自分の生活スタイルを変えない生活人という印象を強く感じる。

彼女が守りたいものは、必ずしも愛ではなく、自分の自由な生き方であったと思える。最後の闘牛士の男をめぐる対話を引用しよう。（岩波文庫「カルメン」杉捷夫訳）「お前はルーカス（オペラではエスカミリオ）にほれているのか？「そうさ、私はあの男にほれましたよ。お前さんにほれたように、一時はね。たぶんお前さんほどには真剣にはほれなかったろうよ。今では、何も愛しているものなんかありはしない。そうして、私は、おまえさんにほれたことをにくらしく思っているんだよ。」そ

の時点で闘牛士はすでに女にもてる勇敢で格好のいい男ではなく、怪我で再起不能になっていたのだ。それにも関わらず、カルメンはドン・リサラベングヴ（オペラではドン・ホセ）の「昔のよりを戻してくれ」という願いを拒み続け、男に刺されて死ぬ。

カルメンはカルタ占いに頼らなくとも、はじめからこの男に殺される結末を予感していたのだ。カルメンは自分に執着し続ける男を可愛いく思いながらも、次のように警告している。「つづきっこはなしさ、犬と狼じゃ長いこといい所帯はつくれませんからね。」犬とは既成の社会の秩序、倫理観のもとで生きることが相応しいドン・リサラベングヴでのことであり、狼とはそんな規範に何の恐れも価値も見いださず自由奔放に生きる彼女自身である。人を騙し、物を盗み、犯罪を犯し続ける生活も、ジプシーの女のカルメンにとっては、日常そのものであり、後ろめたいものではなかったが、彼にとってはカルメンのために耐え忍ぶことを余儀なくされる不本意な生活だったのだ。彼が自分（カルメン）を諦めることが出来ず、自分は彼が求めるような女になれない限り、最後は彼に殺されるという結末しか残されていないことを悟っていたのである。

４）オペラにおけるカルメン

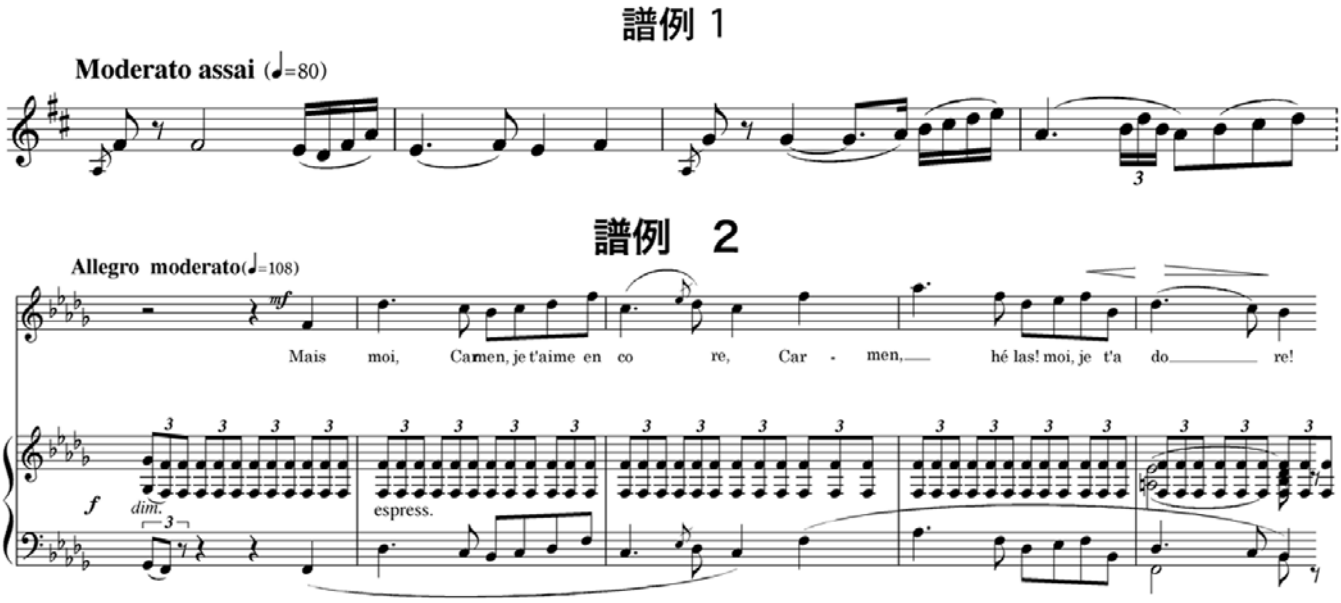
ビゼーは当初は原作に忠実な台本を望んだらしいが、カルメンが盗賊の女であるなど、色々問題もあり、書き上げられた台本は原作とはかなり違ったものになった。カルメンは愛に生きる情熱的で自由奔放な（この点は原作を踏襲している）女として描かれ、闘牛士エスカミリオは格好のいい恋敵に、そして、ミカエラという一人の男を愛し続ける純情でしっかりものの少女も書き加えられた。もっとも異なるのは、殺戮シーンである。小説では薄暗い洞窟で行われるが、オペラでは闘牛場の大歓声を背景にカルメンは殺される。私は、このラストシーンは、数あるオペラのラストシーンの中で、最も成功したものの一つという感想を持っている。
カルメンの音楽は、明るさ、暗さ、ドキツさ、優美さが織りをなして連なっている。この音楽からは「タイクツ」の「タ」の一字さえ、感じることがない。

ワーグナーとの関係が悪くなっていた哲学者のニーチェは、ワーグナーの作品とは全く異なる『カルメン』を、ヨーロッパ芸術の地中海化への原理にほどよくかなった理想的オペラ、と賞賛している。

ビゼーより２才後輩のチャイコフスキーは、ビゼーの死から５年後、次のように記している「昨夜、仕事の疲れを休める為にビゼーの『カルメン』を全曲弾いた。傑作という言葉の意味をいかんなく発揮した楽曲だ。今後 10 年の間に世界で一番人気のあるオペラになるだろう」。やがて大作曲家ではあるが、バレエ音楽で世俗的な成功も収めたチャイコフスキーの勘は当たる。
ところでチャイコフスキーは『カルメン』の全曲弾いたことを５年後に記しているが、『カルメン』のヴォーカル・スコアは、ビゼーが没した年の 1875 年に、すでに最初の版が発売されている。私は、チャイコフスキーは 1880 年よりもっと前に楽譜を手にしていたのではなかろうかと推測している。

【譜例１】は、ビゼーの死から３年後の 1878 年に完成されたチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲第一楽章の第一主題の旋律である。【譜例２】は最後の二重唱で、カルメンに「もう愛してなんかいないわ」と言われたドン・ホセが、「だがおれは、カルメン、まだ愛している。ああ！おれはお前が好きなんだ」と訴える部分である。私は、『カルメン』のこの部分を聴くと、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を思い起こしてしまう。固定ドで読譜する人は、ドン・ホセのパート

を低音部譜表に読み替えて歌ってみて欲しい。



よく耳にした曲と似た旋律を書いてしまうことは、作曲家にはよくあることで、このような例は沢山あるのだが、チャイコフスキーが『カルメン』に惚れ込んでいたことの証拠のように思えるのだ。似ているといっても、チャイコフスキーはチャイコフスキーであり、ビゼーはビゼーであることに変わりはないのだが。

『カルメン』は近年になって、初演時の台詞が入ったオペラ・コミック版が見直され、今ではこちらの版で演奏されることも多い。しかし、台詞をレチタティーボに置き替えたギロー版も依然としてよく演奏される。私は、どちらの版で演奏しても、『カルメン』の魅力が損なわれることはないと考えている。原典版は、よりリアリティーがあり、ギロー版は音楽を途切れさせないという長所がある。しかし、どちらの版で演奏しても、よい演奏、よい演出なら、『カルメン』はやはり魅力的である。

（なかじま　よういち　本誌　編集長）

『音楽の世界』　２０１１年 ８／９月号

プッチーニについての私見　　作曲：中島洋一

私が初めてオペラに触れたのは、小学校３年の夏休みに、母に連れられて観た『トスカ』であった。日光で母方の親戚の集まりがあり、その足で東京の母の姉の家に泊まり、一日で、歌舞伎とオペラをハシゴ観劇するという凄まじいスケジュールだったのだ。

子供達の情操教育のためというのは表向きの口実で、久しぶりに東京に出た母が、田舎では食べられない芸術という料理を溜め食いしておきたかったというのが本当のところであろう。いくら音楽好きといっても、片田舎の小学校三年の子供に、多分、イタリア語で歌われていたオペラが理解出来る筈がなく、退屈でたまらなかったが、それでも幕間に母がストーリーを説明してくれたので、筋書きについては、いくらかは理解できた。いまでも、トスカがスカルピアを刺殺する場面、カヴァラドッシが銃殺される場面、トスカが自殺する場面は憶えている。

ジャコモ・プッチーニ(1858－1925)

しかし、その後、プッチーニとはあまり縁がなくなる。音大時代には、ワグナー、ドビュッシー、ラヴェル、ベルクなどの作曲家が興味の対象となり、オペラ系の作品ではワグナーが好きで、トリスタンをはじめ、かなり多くのボーカル・スコアを揃えていた。プッチーニの作品については30代の中半に、オペラを自作するまでは、あまり触れることが無かったのである。

それでも音大を生活の場としているなら、当然、プッチーニの有名なアリアくらいは、聴く機会がある。耳に入ってくるプッチーニの音楽は嫌いではなかった。

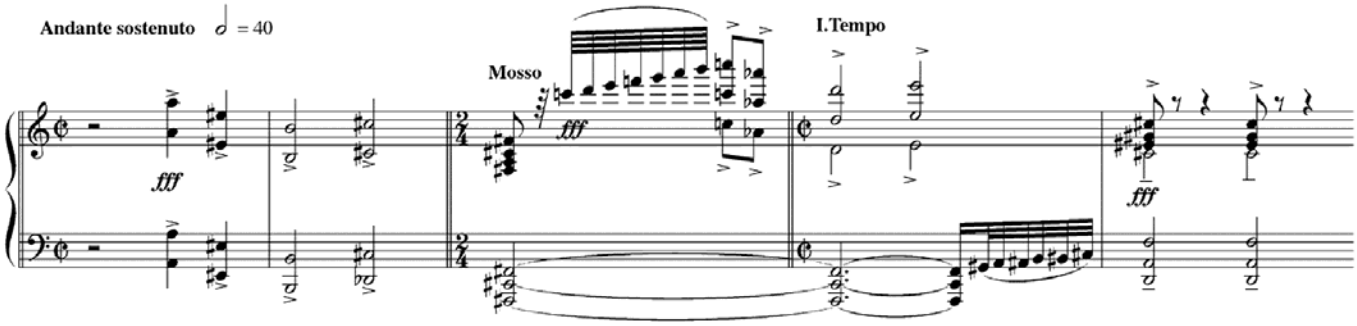
ストラヴィンスキーへのインタビューを本にした『118の質問に答える(1961年出版)』の中で、ストラヴィンスキーは「ディアギレフは笑いながら死んだ。(そうして、どんな音楽にも劣らず、本当に好きだった《ラ・ボエーム》を歌いながら」と回想している。実はこの部分は、脳を患って死んだラヴェルの悲惨な死を語るため、ディアギレフの幸せな死を対比させて述べたものだが、《ラ・ボエーム》の何を歌いながら死んだのかは書かれていない。しかし、死の間際に歌った心の歌が《ラ・ボエーム》だったことは、なんとなく判るような気がした。

芸術作品には、強い衝撃を受ける作品、偉大さに圧倒されそうになる作品があるが、その一方、自分の心に染みこんで来るたまらなく好きな作品というものがある。私にとってマーラー、太宰治などは後者に入るが、プッチーニも多分、こちらに入るであろう。

プッチーニの作風

《現代音楽》という枠組みに囚われていた若い頃は、プッチーニの芸術を、現代につながらない過去の伝統世界の芸術という先入観でみてしまっていたが、そのような枠組みを取っ払って見直してみると、気づくことは、彼が同時代に現れた様々な新しい音楽を排除せずに、その成果の多くを自分の音楽に採り入れていることである。例えば「私の名はミミ」の冒頭の旋律線と和声からは、そっとワグナーの顔が覗き、「歌に生き、恋いに生き」の冒頭の三和音の平行和声は、ドビュッシーを連想させる。特に平行和声や、内声に和音を持ち上下の外声が同じ旋律を奏する輪郭法的手法は、プッチーニが好んで多用する。

また『蝶々夫人』では、“さくら　さくら”、“かっぽれ”など、多くの日本の旋律が採り入れられているのは、ご存知の通りだが、『トゥーランドッド』では、よりこなれた形で、中国の５音音階が採り入れられている。さらに、同作品では、複調、ポリコードといった当時の前衛的作曲家の間で流行った手法もみられる。以下はオペラの冒頭の部分の譜例である。



ユニゾンで現れたトゥーランドッドの動機が、3 小節目の頭で嬰ヘ短調の主和音に落ち着くと、短三度上に同じ動機が姿を現す。３小節目の最後の変イ音は本来嬰ト音であり、嬰ヘ短調の主和音の上にイ短調の動機が乗る復調の形態が現れている。５小節目の和音は、下の Dm の和音の上に、C#M の和音が乗るポリコードの形態をとっている。しかし、上の和音の C#,E#,G#のうち、E#は F の異名同音であり、C#,G#はそれぞれ、D と A の倚音が付加音化したもので、よく響くように配慮されている。このような和音の重ね方は、プッチーニ、ラヴェルなどが好むところである。

しかし、プッチーニは単に流行を追う作家でもなければ、もちろん頑固に外からの影響を排除する作家でもない。彼は、自分の好みに合致したものについては、何でも積極的に採り入れ、自分の芸術の材料として消化する胃袋と技量を持った作家であった。そして様々な手法は、劇的効果を高め、音楽ドラマとしてのオペラに、迫力と魅力をもたらすために使われる。前述の『トゥーランドッド』の冒頭もトゥーランドッド姫の性格を暗示し、このオペラの展開を予感させる効果を狙ったものであろう。また、彼が好んで用いる示導動機は、ワグナーの『指輪』４部作のように説明的に用いるのではなく、愛の記憶を呼びさますように使われ、聴き手を主人公の心の世界に引きずり込んで行く。彼は劇的効果を求めて、同じ音型を転調して反復する手法を多用するが、劇的効果の追及はドラマを完結させる終止にも及ぶ。蝶々夫人の最後はロ短調の主和音（ロ、ニ、嬰への和音）ではなく、ロ、ニ、ト音の和音で終わっている。嬰ヘ音をト音に変えたことで、蝶々夫人の死、不在を強烈に印象づけているのだ。

プッチーニが拘ったもの

プッチーニが最も好み、また拘ったのは、女性であろう。彼は日常生活においては、女を泣かせたこともあろうが、逆に女の強い嫉妬心、独占欲に苦しめられたこともあろう。しかし、彼は自分の芸術においては、美しい女性像を追及し続けた。

例えば、蝶々夫人の登場場面では、すぐには舞台に姿を見せず、愛の主題が増三和音に入るところで、コーラスとハープに導かれ、舞台裏から蝶々夫人の声が聴こえて来る。このシーンは夢の世界で妖精に出逢うように、神秘的で美しい。また、ずっと待ち続けた夫が帰って来たと知り、有頂天になり、部屋を花で満たそうとしたり、障子に穴を開けて、帰って来る夫の姿をのぞき見しようとするシーンなども、女の可愛らしさ、いじらしさが見事に表現されている。そして、最後は、自身のプライドと心にある理想の愛を守るために、彼女は死を選ぶ。このオペラは日本を舞台にしてはいるが、日本女性を描いたのではなく、プッチーニ自身が求めた女性像を描いたのである。

プッチーニは最後まで、女と愛のイメージを追い続けた。それが、あの叙情的なプッチーニ節を生み出した。そして、様々な音楽要素を取り入れ作風が変化して行っても、決してプッチーニ節を捨てることはなかった。それは『蝶々夫人』の“ある晴れた日”や、『トゥーランドッド』の王子のアリア『誰も寝てはならぬ』や、リューのアリアを聴けばすぐ判る。彼はプッチーニ節により、多くの人々から愛されたが、一部の専門家から通俗的過ぎるとの批判を受けた。しかし、彼の後輩に当たるラヴェルやストラヴィンスキーなどの大作曲家たちは、プッチーニの芸術家としての力量と存在意義をちゃんと評価している。

第二次大戦後の現代音楽の世界では、何を書くかより、どのような方法で書くかの方が重要視されてしまった。そして、「もう音楽資源は食いつぶされてしまい、新たに書くべきものは何もなくなった」などと、まことしやかに言われたことがあった。しかし、人に音を使って書きたいこと、書くべきことがある限り、音楽資源の枯渇などあろう筈はない。

プッチーニは、自分の書きたいものを書くために進化し、その一方で、そのために自分のスタイルを守り通した。プッチーニが歩んだ道は、いま、新しい芸術を創造しようとしている我々にとって、良いヒントとを示すものではなかろうか？

『音楽の世界』２００９年８／９月号掲載

《CMDJ オペラコンサート、過去9回の開催の記録》

第１回：CMDJ2005 年オペラコンサート【愛・憎しみ・血の惨劇】

日時：２００５年１２月２日（金）午後６時半開演
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

《プログラム》　（準演奏会形式）

1)　PAGLIACCI　Leoncavallo
『道化師』 レオンカヴァルロ　　伴奏：亀井奈緒美
道化師トニオの口上 “ごめん蒙りまして”　　佐藤 光政

2)　DON GIOVANNI　Mozart
ドン・ジョヴァンニ　モーツァルト　伴奏：亀井 奈緒美＆藤川 志保（１曲）
No. 7　二重唱（ドン・ジョヴァンニ＆ツェルリーナ）松浦 豊彦＆渡辺 裕子
“手を取りあって誓いを交わそう”
No.12　アリア（ドン・ジョヴァンニ）“シャンペンの歌”　　松浦 豊彦
No.13　アリア（ツェルリーナ）“ぶって、ぶって！マゼット”渡辺 裕子
No.17　アリア（ドン・ジョヴァンニ）“セレナード”　　松浦 豊彦
No.18　アリア（　〃　）　“この横町からあちらへ行け”　松浦 豊彦
No.19　アリア（ツェルリーナ）“もしもあんたがおりこうさんに．．”　渡辺 裕子
No.25　アリア（ドンナ・アンナ）“いまも変わらずに愛する”
矢数典子　　伴奏 藤川志保

3)　RIGOLETTO　Verdi
リゴレット　　ヴェルディ　　伴奏：亀井奈緒美
No.9 アリア　“麗しき御名”（ジルダ）　　島 信子
No.12　“あくまめ鬼め”（リゴレット）　　水野賢司
No.14　二重唱 “いつも教会へ．．”　　島 信子＆水野 賢司

4)　OTELLO　Verdi
オテロ　　ヴェルディ　　伴奏：北川葉子
“柳の歌”、“アヴェマリア”（デズデモーナ）　　金子 直美

5）CARMEN　Bizet
カルメン　　ビゼー　　伴奏：北川葉子＆藤川志保（１曲）
No.5“　ハバネラ”（カルメン:）　　田辺 いづみ
No.14　“闘牛士の歌”（エスカミリオ）　　佐藤 光政
No.17　“花の歌”（ドン・ホセ）　　土屋 清美
No.22　“ミカエラのアリア”　　矢数典子　伴奏：藤川志保
No.27　最後の二重唱　　土屋清美＆田辺いづみ

司会（兼）：佐藤 光政／ピアノ：北川葉子・亀井奈緒美／構成・企画：中島洋一

第２回：CMDJ2007年オペラコンサート【愛のたくらみ】

日時：：２００７年９月14日（金）午後６時半開演／午後６時開場
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

２）ロッシーニ　『セヴィリャの理髪師』　（抜粋）歌唱部伊語／台詞：日本語

No.4　フィガロ（カヴァティーナ）“おいらは町のなんでも屋”　佐藤光政
No.7　ロジーナ（カヴァティーナ）“今の歌声”　村上貴子
No.9　二重唱（フィガロ、ロジーナ）　佐藤光政、村上貴子
No.16 ベルタ（アリア）　太田智子
おまけ曲（本番のお楽しみ）　太田智子

----------（小休憩）----------

３）J.シュトラウス　『こうもり』　（抜粋）　歌唱部独語／台詞：日本語

No.1a　二重唱　（ロザリンデ、アデーレ）　金子直美、島信子
No.3　二重唱（ファルケ、アイゼンシュタイン）石川雄蔵、神林紘一
No.4　三重唱（アイゼンシュタイン、ロザリンデ、アデーレ）
神林紘一、金子直美、島信子、
No.9　二重唱（ロザリンデ、アイゼンシュタイン）金子直美、神林紘一
No.10　アリア（チャルダッシュ）ロザリンデ　金子直美
No.11　アリア→合唱　石川雄蔵他→合唱
No.14　クプレ（アデーレ）　島信子
No.16　最後の合唱

----------（休憩）----------

４）レハール　『メリー・ウィドウ』　（抜粋）　日本語公演

No.4　アリア“祖国のためなら”（ダニロ）　佐藤光政
No.5　二重唱（ヴァランシエンヌ、カミユ）　長谷川実美、神林紘一
No.7　森の乙女の歌（ハンナ）　島田祐子
No.8　二重唱「間抜けな騎兵の歌」（ハンナ、ダニロ）　島田祐子、佐藤光政
No.11 二重唱とロマンス（ヴァランシエンヌ、カミユ）　長谷川実美、神林紘一
第三幕はすべて演奏する
No.14 シャンソン　（ヴァランシエンヌ（長谷川実美）＋合唱（斉唱）
No.14ａ　回想　（合唱）
No.15　二重唱　（ハンナ、ダニロ）　島田祐子、佐藤光政
No.16　大詰めの合唱（ハンナ→ツェータ、ダニロ→合唱）
島田祐子→石川雄蔵→佐藤光政→合唱）

司会（兼）：　佐藤光政／演出：島信子／ピアノ：亀井奈緒美（全演目）
構成・企画・音響：中島洋一

第３回：CMDJ2008 年オペラコンサート【愛と夢の世界へのお誘い】

日時：：２００８年９月 21 日（日）午後４時開演
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

１）オペラアリアの楽しみ（ソプラノ・アリアの競演）
モーツァルト　歌劇『ツァイーデ』より　“安らかにお休み、私のいとしい命よ”
歌：山下 美樹（ソプラノ）　ピアノ伴奏：亀井 奈緒美
プッチーニ　歌劇「ボエーム」より　“私の名はミミ”
歌：武田 麻衣（ソプラノ）　ピアノ伴奏：亀井 奈緒美

２）ヴェルディ　『椿姫』　より　（演奏会形式）
① 乾杯の歌（第１幕 第２景）　歌：佐野友美／加藤太朗、
② ああ、は彼の人か～花から花へ（第１幕 第５景）　歌：佐野友美
③ ひとりきりじゃ面白くない、今の毎日は（第２幕 第１景）歌：加藤太朗
④ プロヴァンスの海と陸　歌：佐藤光政
⑤ パリを離れて　歌：佐野友美／加藤太朗
配役：ヴィオレッタ：佐野友美(Sop.)／アルフレード・ジェルモン：加藤太朗(Ten.)
ジョルジュ・ジェルモン：佐藤光政(Bar.)／ピアノ伴奏：亀井奈緒美
----------（休憩）----------
３）フンパーディンク　『ヘンゼルとグレーテル』　宿小版　日本語公演
① 第１幕～第２幕
----------（休憩）----------
② 第３幕
配役：ヘンゼル(M.S)：湯川亜也子／グレーテル(Sop.)：佐々木寿子
父親ペーター（Bar.）:佐藤光政／母親ゲルトルート(M.S.)：増田浩子
お菓子の魔女(M.S.)：花田愛
眠りの精(Sop.)：武田麻衣／ 露の精(Sop.)：山下美樹
お菓子の子ども達＆天使達のパントマイム：児童合唱団　市川コーロ・バンビーニ
合唱指導＆指揮：渡辺裕子
リコーダー演奏：佐藤幸子／電子オーケストラサウンド制作：中島洋一

司会：佐藤光政／ピアノ：伴奏　亀井奈緒美／ 演出：島信子
制作：浦富美／舞台監督：橘川琢／企画・構成：中島 洋一

第４回：CMDJ2009 年オペラコンサート【愛の喜びと悲しみ】

～フランスオペラとイタリアオペラの世界～　（演奏会形式）

日時：：２００９年 10 月８日（木）午後６時半開演
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

【前半】

ドリーブ　歌劇『ラクメ』より　“鐘の歌”
歌：齋藤 希絵（ソプラノ）

サン＝サーンス　歌劇『サムソンとデリラ』より　“私の心はあなたの声に花開く”
歌：湯川 亜也子（メゾ・ソプラノ）

グノー　歌劇『ファウスト』より　～
“門出を前に”　歌：中山 弘一
“宝石の歌”　歌：佐々木寿子

ドニゼッティ　歌劇『愛の妙薬より』“人知れぬ涙”歌：土屋清美（テノール）

マスカーニ　歌劇『カヴァレリア・ルスチカーナ』より　“ママも知る通り”
歌：高橋 順子（ソプラノ）

マスネー　歌劇『マノン』より～
“私まだぼんやりしているの”、“さようなら、私たちの小さなテーブルよ”
歌:小木曽　実奈(ソプラノ)

----------（休憩）----------

【後半】

ビゼー　歌劇『真珠採り』より
“昔のように　夜の暗がりの中”　歌：佐々木 寿子（ソプラノノ）
“嵐は静まり”　歌：中山 弘一（バリトン）

マスネー　歌劇『ウェルテル』より　“手紙の歌”　歌：湯川 亜也子（メゾ・ソプラノ）

プッチーニ（Puccini）の歌劇から

『ラ・ボエーム』より　“さようなら”／　『トスカ』より　“歌に生き、愛に生き”
歌：増子 あゆみ（ソプラノ）

『蝶々夫人』“ある晴れた日に”　歌：高橋 順子（ソプラノ）

『トゥーランドット』“だれも寝てはならぬ”　歌：土屋 清美（テノール）

司会：佐藤光政／ピアノ伴奏：亀井奈緒美（全演目）／構成・企画：中島洋一

第５回：CMDJ2010 年オペラコンサート【音楽と笑い】～喜歌劇を中心に～

日時：：２０１０年９月 22 日（水）午後６時半開演
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

《前半》　アリアと重唱

オーベール　喜歌劇『フラ・ディアボロ』より
No.4“ロマンス”　歌：花田 愛（ソプラノ）
No.7“ご心配なく閣下”　歌：秋山来実（ソプラノ）

J.シュトラウス２世　喜歌劇『こうもり』より
“侯爵さま、あなたのようなお方は”　歌：大久保雅代（ソプラノ）
“ふるさとの空をみたら”　歌：太田智子（ソプラノ）

モーツァルト　『コシ・ファン・トゥッテ』より
“岩のように動かずに”　歌：太田智子（ソプラノ）

プッチーニ　『ラ・ボエーム』より
“私が町を歩くと（ムゼッタのワルツ）”歌：大久保雅代（ソプラノ）

オッフェンバック　喜歌劇『地獄のオルフェ（天国と地獄）』より
"ああ！なんと悲しい運命"　歌:齊藤 希絵（ソプラノ）

オッフェンバック　『ホフマン物語』より　「舟歌」
秋山 来実（ソプラノ）／湯川 亜也子（メゾ・ソプラノ）

ビゼー　『カルメン』より　「ジプシーの歌」
カルメン：湯川 亜也子（メゾ・ソプラノ）
フラスキータ：秋山 来実（ソプラノ）／メルセデス：花田 愛（ソプラノ）

---------- （休憩） ----------

《後半》

レハール　『メリー・ウィドウ』　日本語公演　（ハイライト）

◆配役◆

ハンナ・グラヴァリ（未亡人）：斎藤　希絵（ソプラノ）《代役出演》
ミルコ・ツェータ男爵（ボンテヴェルドロ国のパリ駐在公使：中山 弘一（バリトン）
ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵（公使館秘書・騎兵中尉）：佐藤 光政（ハイ・バリトン）
ヴァランシエンヌ（ツェータの妻）：長谷川 実美（ソプラノ）
カミユ・ド・ロジョン（パリの伊達男）：宮本 英一郎（テノール）
高級酒場マキシムの踊り子たち
秋山 来実／大久保 雅代／太田 智子／／花田 愛／湯川 亜也子

ピアノ伴奏：亀井奈緒美（全演目）
司会：佐藤光政／演出：島信子／企画・構成：中島洋一

第６回：CMDJ2011 年オペラコンサート【愛の悲劇】

日時：：２０１１年９月 15 日（木）午後６時半開演
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

《前半》　ソプラノ歌手魅惑の競演（アリアコンサート）

ヴェルディ『リゴレット』より　“慕わしい人の名は”　歌：今井 梨紗子（ソプラノ）
プッチーニ　『ラ・ボエーム』より“私の名はミミ／　“あなたの愛の声に呼ばれて出た家に”
歌：高橋 順子（ソプラノ）
ヴェルディ『椿姫』より　“さようなら、過ぎ去った日よ”　歌：福田 礼美(ソプラノ)
マスネ　『エロディアード』より　“美しく優しい君”歌：福田 礼美(ソプラノ)
マイアベーア『エディノラ』より　“軽い影よ”　歌：齊藤 希絵(ソプラノ)
ヴェルディ　『海賊』より　“私の頭から暗い考えを”　歌：吉水 知草(ソプラノ)
プッチーニ　『修道女アンジェリカ』より　“母もなく”　歌：吉水 知草(ソプラノ)

《後半》　ジョルジュ・ビゼー『カルメン』（ハイライト）

《配　役》

カルメン：藤長 静佳（メゾ・ソプラノ）／ドン・ホセ：高柳 圭(テノール)
エスカミリオ：佐藤 光政(バリトン)／ミカエラ：小木曽 実奈(ソプラノ)
フラスキータ：坂本 久美(ソプラノ)／メルセデス：佐々木 寿子(ソプラノ)
合唱：(出演者全員＜カルメン役とドンホセ役を除く＞)

《演奏曲》

★第一幕
No.5″ハバネラ″（カルメン）／No.7 二重唱（ドン・ホセとミカエラ）
★第二幕
No.12″ジプシーの歌″（カルメン、フラスキータ、メルセデス）
No.14 ″闘牛士の歌″（エスカミリオ＋メルセデス、フラスキータ、カルメン）
No.17 ″花の歌″（ドン・ホセ）
★第三幕
No.20 三重唱＋カルタの歌（カルメン、フラスキータ、メルセデス）
No.22 ″ミカエラのアリア″（ミカエラ）
★第四幕
No.27 二重唱と終わりの合唱（カルメン、ドン・ホセ、合唱）

ピアノ伴奏：亀井奈緒美（全演目）
司会：佐藤光政／演出：島信子／企画・構成・音響：中島洋一

第７回：CMDJ2012 年オペラコンサート【愛の表と裏】

日時：：２０１２年９月 21 日（金）午後６時半開演
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

《前半》 魅惑のオペラアリア(アリアコンサート)

グノー　歌劇『ファウスト』より　“宝石の歌”歌：　北風 紘子（ソプラノ）
マスネ　歌劇『エロディアード』より“美しく優しい君”
歌：岡田 真実（ソプラノ）
マスネ　歌劇『マノン』より“さあマノン空想はおしまい！”歌：秋山 来実（ソプラノ）
ヴェルディ 歌劇『ファルスタッフ』より “秘密の抜け穴から” 歌：高橋 順子（ソプラノ）
同　歌劇『運命の力』より　“神よ平和を与えたまえ”　〃
J.シュトラウス２世　喜歌劇『こうもり』より　“私はお客を呼ぶのが好き”
歌：鈴木 望（メゾ・ソプラノ）
上同　“侯爵さま、あなたのようなお方は”
歌：今井 梨紗子（ソプラノ）
ドニゼッティ　歌劇『愛の妙薬』より　“人知れぬ涙”　歌：高柳 圭（テノール）

《後半》オッフェンバック 『地獄のオルフェ(天国と地獄)』(ハイライト)

(歌唱：フランス語／台詞：日本語)

《配　役》
オルフェ：髙柳 圭（テノール）／ユリディス：大武 彩子（ソプラノ）
アリステ＆プリュトン：佐藤 光政(ハイ・バリトン)
世論：鈴木 望(M-sop.／ヴェニュス：岡田 真実(ソプラノ)
キュピドン：今井 梨紗子（ソプラノ）／ディアヌ：北風 紘子(ソプラノ)
ジュノン&ジョン・スティクス：秋山 来実（ソプラノ）
ジュピテル：中山 弘一（バリトン）／ヴァイオリン独奏：粟津 惇
合唱：(出演者全員＜前半の出演者を含む＞)

ピアノ伴奏：亀井奈緒美（全演目）

司会：佐藤光政／企画・構成・音響・台本：中島洋一

第８回：CMDJ2013 年オペラコンサート【愛の葛藤】

～ヴェルディ、ワーグナーとその周辺の作曲家によるアリアコンサート～

ヴェルディ・ワーグナー生誕 200 年にちなんで

日時：：２０１３年９月 26 日（木）午後６時半開演

会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

ドニゼッティ（ヴェルディの先輩）

『連隊の娘』より“望みはないわ～フランスに敬礼！” **原田 智代(Sop.)**

『愛の妙薬』より“人知れぬ涙” **神林 淳(Ten.)**

ヴェルディ

歌曲『６つのロマンス』より“孤独な部屋で” **今井梨紗子(Sop.)**

『仮面舞踏会』より “ここは恐ろしい場所…. ” **高橋 順子(Sop.)**

『オテロ』より “アヴェマリア” 〃

『リゴレット』より “慕わしい人の名は” **今井梨紗子(Sop.)**

上同 “女心の歌” **土屋 清美(Ten.)**

『椿姫』より “あぁ、そはかの人か～花から花へ～” **柴田紗貴子(Sop.)**

上同 “ひとりきりじゃおもしろくない” **神林 淳(Ten.)**

---------- 休憩 ----------

フンパーティンク（ワーグナーの弟子）

『ヘンゼルとグレーテル』より “踊りましょうよ”（二重唱）

箕浦 綾乃(Sop.)・実川 裕紀(M-sop.)

マスネ（ワーグナーの影響もみられるフランスの作曲家）

『ウェルテル』より“手紙の歌” **実川 裕紀(Sop.)**

ワーグナー

『タンホイザー』より “エリザベートの祈り” **笠原 たか(Sop.)**

歌曲『ヴェーセンドンクによる５つの詩』より “停まれ”、“夢”

笠原 たか(Sop.)

R・シュトラウス（ワーグナーの後継者）

『ナクソス島のアリアドネ』より「偉大なる王女様」 **箕浦 綾乃(Sop).**

プッチーニ（ヴェルディの後輩＆後継者））

『つばめ』より “ドレッタの素敵な夢” **柴田紗貴子(sop.)**

『マノンレスコー』より ”なんとすばらし美女” **土屋 清美(Ten.)**

ワーグナー 『ローエングリン』より “婚礼の合唱” **参加者全員**

司会：佐藤 光政／ピアノ：亀井 奈緒美（全演目）／企画・構成：中島 洋一

第９回：CMDJ2014 年オペラコンサート【愛の悲劇再び】

日時：：２０１４年９月 25 日（木）午後６時半開演
会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

【前半】『艶やかな歌の競演:オペラ･アリア＆歌曲コンサート』

カタラーニ　歌劇『ワリー』より　“さようなら、ふるさとの家よ”
プッチーニ　歌劇『蝶々夫人』より　ある晴れた日に”
以上二曲　**歌：佐藤 優衣**（ソプラノ）
プッチーニ　歌劇『マノンレスコー』より
“柔らかなレースの中で”、“一人寂しく捨てられて”
歌：高橋 順子（ソプラノ）
ヴェルディ　歌劇『リゴレット』より　“麗しき御名”
プッチーニ　歌劇『トゥーランドット』より　“氷のような姫君の心も”
以上二曲　**歌：村上 貴子**(ソプラノ)

デュパルク　歌曲　“フィディレ”　、　“前世”
以上二曲　**歌：笠原 たか**(ソプラノ)
チレア　歌劇『アルルの女』より　“フェデリーコの嘆き”
プッチーニ　歌劇『トスカ』より　星は光ぬ”
以上二曲　**歌：土屋 清美**(テノール)
(※土屋清美氏は病気のため演奏辞退)

---------- 休憩 ----------

《後半》 ジョルジュ･ビゼー『カルメン』（縮小版）
（歌唱：フランス語、台詞：日本語　〈日本語台本：中島洋一〉）

《配　役》
カルメン：藤長 静佳（メゾ・ソプラノ）／ドン・ホセ：三木 佑真(テノール)
エスカミリオ：品田 広希(バリトン)／ミカエラ：三井 清夏（ソプラノ）
フラスキータ：今野 絵理香(ソプラノ)／メルセデス：富永 珠末(ソプラノ)
ジプシーの女 A：村上 貴子（ソプラノ)／ジプシーの女 B：佐藤 優衣(ソプラノ)

ピアノ伴奏：亀井 奈緒美（全演目）／司会：佐藤 光政（バリトン）
演出：島 信子／企画・構成・音響：中島 洋一

日本音楽舞踊会議

会と会員の情報

会と会員のスケジュール

※ゴシック体は本会主催公演(会員は無料もしくは優待)、明朝体は本会会員の公演情報です。

2015 年

10　月

9 日(金)　太田恵美子・八木宏子・B.B.モフラン＆ジャンボ
「第 13 回チャリティーコンサート」　　「おといろいろ」「少年ケニヤの友」共催
矢代秋雄：2 本のフルートのためのソナタ　ドヴォルザーク：ソナチネ Op.100
【調布市グリーンホール（小）19：00　2500 円】
後援：多摩アフリカセンター（NGO)、調布市、調布市教育委員会

10 日(土) 深沢亮子　美濃源氏フォーラム 25 周年記念
公開レッスン　　【ホワイトスクエア（瑞浪市）　16:00】

11 日(日) 深沢亮子　美濃源氏フォーラム 25 周年記念
コンサート　モーツァルト・シューベルト・原田稔他の作品予定
【瑞浪市総合文化センター・文化ホール 11:00】

12 日(月・祝)　**様々な音の風景ＸⅡ（２０世紀以降の音楽とその潮流）**

１、金藤　豊　首のうた～遠景近景 2 より
２、浅香　満　ピアノソナタ
３、シュニトゥ　ア・パガニーニ
４、中島恒雄「大樹」ー ソプラノと箏のために
５、矢代秋雄　ピアノソナタ
６、北條直彦　『饗相』記憶の風景より　ーピアノ独奏のためのー
７、原　博　ヴァイオリンソナタ
８、ロクリアン正岡　組曲「泣く女」～クラリネットとヴィオラによる。他
【すみだトリフォニー小ホール　16:30 開演 16:00 開場 】

16 日(金) 原口摩純　演奏家とお客様、みんなで「曲」を応援するコンサート
ピティナ・ピアノ曲事典　公開録音コンサート
共演：桂川千秋(Vn) くぼたりょう(Vc)
ベートーヴェン　ピアノトリオ　全曲録音 Vol.1＆室内楽ステップ活用曲集
ベートーヴェン/ピアノ三重奏曲のためのアレグレット WoO.39
ベートーヴェン/ピアノトリオ「幽霊」　　他
【東音ホール(東京・巣鴨)　19：00 入場料:後払い方式(終演後にお好きな金額をお決め下さい)】
問合せ:(社)全日本ピアノ指導者協会 TEL 03-3944-1583】

17 日(土) 深沢亮子「モーツァルトの演奏とお話」【水戸奏楽堂・午後】
お問合せ　水戸モーツァルト愛好会、茨城演奏家連盟（主催）029-252-2755
19 日(月)～23 日(金)廣瀬史佳（ピアノ）矢野正浩（フルート）
Benjamin Ziervogel　(ヴァイオリン)
スクールコンサート　／山梨県昭和町の小学校・中学校
27 日(火) 深沢亮子朝日カルチャーセンター　　共演：中村静香（Vn、Va）
ピアノとヴァイオリンのためのソナタ No.40 B-Dur 454（モーツァルト）
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ（ドビュッシー）K.
ピアノとヴィオラのための「おとぎの絵本」 OP.113（シューマン）
ピアノとヴァイオリンのためのソナタ No.8 G-Dur OP.30 No.3（ベートーヴェン）
【新宿住友ビル 7Ｆ　13：00】　問合せ：朝日カルチャーセンター　03-3344-1945

28 日(水) 第 34 回「邦楽創造集団オーラ J」
詩歌曲「花の記憶」（邦楽器版）（2015 年編曲　世界初演）　作品 81

【19：00 開演　目黒パーシモンホール（小ホール）】
31 日(土) 中村静香＆深沢亮子 Duo リサイタル
＊プログラムは 10 月 27 日と同じ。
【東京文化会館小ホール 14：00】問合せ：オフィス・アルシェ　03-3565-6771

11　月

6 日(金) **ピアノ部会第 29 回コンサート　“音楽のプロムナード 2015”**
池松　隆（チェロ）　J.S バッハ/無伴奏チェロ組曲第 3 番より
田中礼二郎（ピアノ）＆中村倫子（ソプラノ）ラフマニノフ/ヴォカリーズ
山上由布子（ピアノ）ブラームス/2 つのラプソディー第 1 番
山下早苗＆田中礼二郎（連弾）メンデルスゾーン/アレグロ・ブリランテ Op.92
太田恵美子（ピアノ）＆和田美絵・池松由美（フルート）
矢代秋雄/2 本のフルートとピアノのためのソナタ
田中礼二郎＆岡本啓子（ソプラノ）プッチーニ/「蝶々夫人」よりある晴れた日に
小崎幸子＆戸引小夜子（連弾）サン＝サーンス/動物の謝肉祭より（朗読付き）
武居美和子（ピアノ）ドビュッシー/前奏曲集第 2 番より　水の精
原口摩純（ピアノ）ショパン/華麗なる大円舞曲 Op.34-3
【杉並公会堂小ホール 19：00　3000 円】

13 日(金) 助川敏弥作品　オーケストラ・トリプティーク　第 4 回演奏会「作曲家と日本の響き」
助川敏弥「ちいさきいのちのために」（弦楽合奏版初演）
林光・小山清茂・村松禎三・芥川也寸志・團伊玖磨ほか作品
【東京オペラシティリサイタルホール 19：00　前売り 3500 円当日 4000 円】

14 日(土)「詩と音楽を歌い、奏でる　トロッタの会 Vol.22」
橘川琢作曲：蜃気楼―芥川龍之介の短編より―（2015 年作曲世界初演）作品 82
橘川琢作曲：詩歌曲「転生の花」（2015 年改訂初演）作品 67b
高橋通作曲：死のピクニック（2015 年作曲　世界初演）
【16：00 開演　早稲田奉仕園リバティホール　3,500 円】

17 日(火) 原口摩純ピアノ・レクチャーコンサート
【東洋英和女学院大学生涯学習センター10:40～12:10　2500 円】
問合せ＆申込み　045-922-9707

18 日(水) 北川暁子ピアノリサイタル
モーツァルト：ピアノソナタ ニ長調 K.284、シューベルト：さすらい人幻想曲　D.760 、
ファリャ：ファンタジア・ベティカ、 デュティーユ：ソナタ
【東京文化会館小ホール　午後 7 時開演】
全席自由 一般￥5000 学生￥3000(当日のみ 学生証提示 サウンド･ギャラリーにて予約可)
サウンド･ギャラリー 03-3398-5691　チケットぴあ 0570-02-9999(P コード　267-207)　東京文化会館チケットサービス　03-5685-0650
問合せ：(株) 音楽事務所サウンド･ギャラリー

19 日(木) 深沢亮子リサイタル
モーツァルト・ショパン・原田稔の作品
【東金文化会館大ホール　12：30】千葉県保護士会（会員のみ）

22 日(日) 広瀬美紀子 ピアノリサイタル
メフィストワルツ(リスト)、友禅(助川敏弥)、「鮫」(ピアソラ、北條直彦編曲)
【東京オペラシティ リサイタルホール 14：00　3500 円(当日 4000 円)】

27 日(金)**「コンチェルトとアリアの夕べ」**
笠原たか（Sop）サン＝サーンス　サムソンとデリラより“あなたの声にわが心は開く”
ドヴォルザーク　ルサルカより“月に寄せる歌”
長屋洋子（Pf）　ラフマニノフ　ピアノ協奏曲　第 2 番　作品 18　第 1 楽章
田中礼二郎（Pf）シュトラウス　ブルレスケ
高橋澄子（箏）　高橋通　ブルー・レゾナンスⅢ
村上貴子（Sop）グノー　ファウストより“宝石の歌”
ロミオとジュリエットより“私は夢に生きたい”
戸引小夜子（Pf）グリーグ　ピアノ協奏曲　作品 16　第 2・3 楽章

指揮：寺島康朗　　エレクトーン：西山淑子・鈴木栄奈・佐々木彩香・清水彩香　　司会：佐藤光政
【ヤマハ・エレクトーンシティ渋谷 19：00　2500 円】

29 日(日)（公社）日本尺八連盟主催　「第 40 回全国尺八コンクール」
審査委員長：坂田誠山　審査委員：高橋雅光他 4 名
【京都市立京都アスニ―ホール　AM9：00 】

12　月

3日(木) 室内楽の夕べ　～深沢亮子と室内楽の仲間たち～

出演：深沢亮子(Pf.)、恵藤久美子(Vn.)、中村静香(Va.)、安田謙一郎(Vc.)

ピアノとヴァイオリンのためのソナチネ No.2 イ短調　D.385（シューベルト）
おとぎの絵本　Op.113（シューマン）
３つのコラール　改稿 2014（安田 謙一郎）
ピアノ四重奏曲 No.2 変ホ長調 K.493(モーツァルト)

【音楽の友ホール　19:00 開演　4500 円(会員優待あり)】

3日(木)「木管楽器主体による５つの着眼 ～現代作曲家グループ「蒼」による新作書き下ろし演奏会 33th」
橘川琢作曲：木管アンサンブルとハープによる「都市の肖像」第８集《琥珀の街》作品 78（2015 年作曲　世界初演）
清道洋一：Divertissement(2015 年作曲　世界初演)
【18：30 開演　すみだトリフォニーホール（小ホール）3,500 円】

18日(金) 舞台音楽：泉鏡花 2015「SHuNjyu」作品 83
舞台音楽：橘川琢　【夕方、夜二回公演　渋谷 UPLINK】

2016 年

1　月

17日(日) 声楽部会公演　2016 年新春に歌う～夢と希望と、そして・・・
【すみだトリフォニー小ホール　午後公演(詳細企画中)】

31日(日) 原口摩純ピティナ・トークコンサート　【フィリアホール】

2　月

9日(火) 原口摩純ピアノ・レクチャーコンサート
【東洋英和女学院大学生涯学習センター10：40～12：10　2500 円
お問合せ＆お申込み　045-922-9707】

9日(火) 深沢亮子　朝日カルチャーセンター　共演　伊藤維（Vn）
モーツァルト：ソナタ B-Dur　K.454
ブラームス：ソナタ A-Dur No2　op120
【新宿住友ビル７階　朝日カルチャーセンター　13：00】
問合せ：TEL　03-3344-1945　(朝日カルチャーセンター)

3　月

3日(木) 邦楽部会第３回演奏会　【すみだトリフォニー小ホール（詳細企画中）】

4日(金)原口摩純「ピティナピアノ曲辞典」公開録音コンサート
【東音ホール　／問合せ:㈳全日本ピアノ指導者協会 TEL 03-3944-1583】

14日(月) 深沢亮子　共演　中村静香（Vn）店村眞積（Va）毛利伯郎（Vc）星秀樹（Cb）
ベートーヴェン：ピアノ四重奏曲　Es-Dur op.16
シューベルト：ピアノ五重奏曲“鱒”A-Dur D.667
【久米美術館　18：00（予定)】　問合せ：日墺協会　TEL 03-3468-1244

4　月

8日(金) フレッシュコンサート 2016 【すみだトリフォニー小ホール（詳細企画中）】

6　月

26日(日) ピアノ部会第 30 回記念コンサート 【オペラシティ・リサイタルホール（詳細企画中）】

7　月

3日(日) 声楽部会公演「歌い継ぐ童謡・愛唱歌コンサート」
【すみだトリフォニー小ホール（詳細企画中)】

9　月

23日(金) CMDJ オペラコンサート 2016　【すみだトリフォニー小ホール 18：30（詳細企画中)】

★ 編 集 後 記 ★

今年の夏は、7 月中旬～８月上旬まで記録的な猛暑に襲われましたが、8 月下旬になると一転して肌寒く感ずるほど曇天と雨の日が続き、今月は、関東地方が大雨に見舞われ、栃木県や茨城県などでは、土砂崩れが起こったり、堤防が決壊したりして、大きな被害をもたらしました。被災された方々にはお見舞い申し上げます。ところで、私は 2010 年６月より、月刊『音楽の世界』の編集長に就任したため、印刷版『音楽の世界』とメルマガ版『音楽の世界』の編集の兼担は極めて難しく、その期間、メルマガは一回しか発行出来ませんでした。しかし、私は今年の 3 月をもって、印刷版『音楽の世界』の編集長の任から解放されましたし、また印刷版『音楽の世界』も、今年４月より季刊に移行したことなどもあり、少々ゆとりが生じたので、会の方々には久しぶりにメルマガを発行すると約束をしたのですが、準備が不十分で、納得出来る内容とは程遠いものになりました。しかし、すぐそこに迫った２９日のＣＭＤＪオペラコンサートに出演する声楽家のみなさんのメッセージを掲載出来たことは収穫でした。まだ、印刷版『音楽の世界』の仕事から、完全に解放された訳ではありませんが、これからは年に２回くらいのペースで、メルマガも併せて発行するようにして行きたいと思います。まだまだ行き届かないところが多いと想いますが、読者の皆様が、気がついたことがございましたら、ご一報いただければ幸いに存じます。

編集責任者：中島　洋一

メールマガジン版『音楽の世界』第 19 号
２０１５年９月 27 日　発行

発行：日本音楽舞踊会議／月刊『音楽の世界』

The CONFERENCE of MUSIC and DANCE, JAPAN
〒169--0075　新宿区高田馬場 4-1-6　寿美ビル３０５号　TEL&FAX 03-3369-7496
ホームページ　http://cmdj1962.com/　　メイン
http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai　アーカイブ
E-mail:　**onbukai@mua.biglobe.ne.jp**

編集責任者：中島　洋一
〒190-0031　東京都立川市砂川町　5-36-3
電話&FAX 042-535-3294　　携帯電話 090-7904-1726
Ｅ-mail：　**yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp**
※このメールマガジンの写真、画像データ、文書データの無断転載を禁じます。